地域共同体の拠点の必要性について
-山形県最上郡金山町における地区公民館等の利用実態-

1882056 本松典夏
指導教員　大原一興教授　藤岡泰寛准教授

1-1 研究背景と目的

人口の減少する地域の共同体は、かつてはその地域に住む人だけのものであったが町外の関係人口も巻き込んだものへと変化しつつある現在、その拠点のあり方も変化しつつある。これは全国の地域づくりに言えることだが、小規模の地域づくりは主に地域住民に委ねられており、その活動が不安定となると、その拠点についても価値を見過ごされがちである。そこで本研究は、公民館が今までどのように使われてきて、住民による地域づくりに役立ってきたかを考察するとともに、現在どのような拠点が必要とされているか。どのような拠点が地域の発展に貢献するのかを考察したい。今回は住民の自律的な地域づくりの盛んな金山町を調査対象地として研究を進めた。

1-2 調査対象地の概要と調査方法

金山町は山形県最北部にあり、町の総面積のうち 66.2%を山林が占め、金山杉で有名な林産地である。中山間地域でありながらも自律的な地域づくりを進めてきた地域である。住民による地域づくりは、街並み保存、歌舞伎や番楽等の伝統の継承から共有林や神社仏閣の管理までに及び、今でも金山の暮らしや住民に魅力を感じる多くの大学生や都市住民を惹きつけている。

今回の調査では、金山町の 31 の自治公民館から 8 地域を抜粋し、2021 年 11 月に区長にヒアリングを行った。また金山町で地域のイベントに参加したり小中学校に出向き勉強を教えるなど幅広く活動をしたりしている山形大学の「チーム道草」にもヒアリングを行った。またこれまでの金山町の域学連携事業の学生レポートも参考にした。

2 自治会館の使われ方、環境について

過疎地域の高齢化やコロナウイルス感染拡大防止のため大人数での集まりを途絶えさせている理由により管理があまりされていない自治公民館も多数見受けられた。一方でよく管理の行き届いている公民館やコロナ禍でも可能なことは公民館でする等、変化にうまく対応しながら金山の地域づくりを失わずに続けている地域もみられた。

また公民館の環境について、まず公民館建設のプロセスが地域によって大きく異なり、飛森地区、宮地区はより多くのお金を払って建設や環境の充実に力を入れており他の地域と比べて現在も頻繁に公民館を利用していることが多かった。また地域独自の神仏習合の行事が残っている地域ではその行事の際の宿や交流の場として公民館が併せて使われており、日頃の利用頻度が多くない公民館でも整備されることが多いようだ。（表 1）

公民館の環境については、表 2 にまとめている。地蔵が向かいにある公民館は金山町の独自のお祭り「お歳灯」の際に合わせて公民館が使われたり、周囲が空地になっている公民館は祭りの際に空地に出店したりするなど地域独自の使い方が見られた。また地区内に公民館以外の集まる拠点があるとその拠点での積極的な住民交流も見られたり、共有林や川、神社仏閣などの地域の共有財産がある場合、コロナ禍でも地域交流が続いている地区も多く、各地域でその拠点に合わせた活動が生まれ住民活動の幅が広がっていることがわかった。

３分校などの地域の拠点について

金山町には 5 つの分校が存在したが、少子化により廃校となりその後、地域の拠点として利用されていた。しかし 2021 年 3 月には全て取り壊しされている。域学連携のレポートによると朴山分校や道草分校、谷口分校などは実際にどの様に行っているかを知る場所となっていたようだ。またチーム道草のヒアリングでは分校で子供たちとのイベントを企画する際に間に入ってくれるのが分校を管理している地域の人だったようだ。そこで食事等持ち寄ってくれていたという。町外に住む人と地域住民とのつながりがこの拠点で育まれていたようだ。分校がなくなったことで地域の運動会や活動も縮小されている。拠点の規模も住民の地域活動を左右する重要な要素である。

4 新しい活動団体の拠点について

チーム道草の活動では、金山町では人づてで場所を探すことが多く拠点は持っていなくても十分に活動してきたようである。活動の場所が変わることで、金山町のいろいろな場所に出向き、さまざまな人に声をかけられて地域の繋がりを作っているという。ただそこでの繋がりは地域住民の中でも地域づくりを積極的に行う団体やリーダー的存在である人に委ねられている点で他の地域住民への定着や繋がりには懸念が残る。

5 結論

公民館の環境の充実度や管理のされ方が良い地域は住民の地域意識が高く、自分達で地域を作っていくという姿勢が見られた。また、管理があまりされていない地域では地域の将来に対して期待を抱いていないような意見が多かった。また、コロナ禍で室内の集団での利用が禁止されていても「お歳灯」という伝統行事で使う地蔵や、定期的に行う神社や共有林が近いと、合わせて公民館を使われていることがわかった。立地条件など環境要因によって使われ方も地域によってかなり異なる。公民館などの拠点の有無が民俗行事の継承存続にも関わると共に、自治公民館は住民による自律した地域づくりの拠点として重要な役割を担ってきた様だ。管理者も高齢化してきたため、地域の拠点である公民館はより使い方や存在意義が不安定になっていくことが予想される。今後はどのように関係人口な

どの外部の人も巻き込んで地域づくりをおこなっていくかが鍵となるのではないかと考えた。

【謝辞】
本研究を進めるに当たり、ヒアリング調査にご協力いただいた金山町住民の皆様、教育委員会、金山町役場、地域おこし協力隊の本間さん、チーム道草の皆様、厚く御礼申しあげます。

【参考文献】

1.「現代公民館の創造―公民館 50 年の歩みと展望」日本社会教 育学会編（東洋館出版社）、1999 年
2.「山形県公民館三十年誌」山形県公民館三十年誌編集委員会編（山形県社会教育振興会）、1982 年
3.「中山間地域共同体の継承と変革に関わる社会教育的研究-山形県最上郡金山町の内発的発展に着目して-」筑波大学学位論文（蜂屋 大八）、2017 年
4. 2021 年度金山町－横浜国立大学域学連携金山町探訪レポート

表 1. 地区公民館等の利用実態

地区	人口	建築概要（設立年度、規模）	作られるまでのプロセス	現在の管理のされ方	その地区特有の行事、伝統
十　日町	476	昭和 9 年、木造 2 階建て	不明	十日町ボランティアグループで管理、年 15 回行事を開催	町単独で避難訓練を開催、公民館で炊き出し、高齢者のため手作り弁当を年 2 回配布 、金山川流域のため環境整備の活動が盛ん
七　日町	1009	昭和 42 年、木造二階建て	不明	近くの川崎屋（商店）で鍵を管理、月一で清掃	公民館の前に地蔵がありお歳灯の際赤飯や煮物の配布を行う
飛森	137	平成 13 年、3 階建、2 階は 48 畳で広い和室	住民の宝くじと集金で 2600 万かけて作られている	コロナ禍でも週に 2 日程度使用、使う前に部屋を掃除するルール	夏祭り（男性）と旧七夕（女性）に　区長の家に前日から泊まり早朝から薬師山に登る。
宮	70	平成 13 年、設備が充実、地下部分を半屋外として利用	有屋小学校の跡地、充実した整備のため助成金を活用	令和三年度は年に 18 回行事を開催	お歳灯、契約講、早苗饗（さなぶり）、念仏講
内町	206	平成 3 年、60 人収容できる大広間	不明	年に数回清掃の日を決めている。	楯山の桜の植樹や散策路の整備を住民で行っている（楯山を愛する会）
上台	255	昭和 39 年、2 階建	不明	不明	さんげさんげ、水路や道路の草刈り（上台地区緑環境保全会）、熊野神社の掃除（子供）
朴山	182	不明	不明	不明	お歳灯、潔癖法検査、婦人会の有志による野菜の直売
田　茂沢	119	昭和 54 年、4 間×3 間であり小規模	不明	月に 1、2 度	年に 2 階ほど田茂沢分校で運動会など地区同士の交流イベントあり

表 2 公民館の周辺環境について

	十日町	七日町	内町	飛森	宮	上台	朴山	田茂沢
公民館の周囲	中央公民館	地蔵尊広場	空地	空地	ー	住宅街	空地	ー
周囲に管理者の自宅	○	×	×	○	×	×	×	×
共有地	金山川流域	×	館山	薬師山	河川、農地	熊野神社、水路	ー	ー
地区内	きごころ橋	改善センター	館山	町民のゴルフ場	地区内の神社、シェーネスハイム	以前は熊野神社の行屋	以前は朴山分校	以前は道草分校

本稿は令和三年度（2021年度）建築学教室卒業研究梗概集（横浜国立大学建築学教室、2022年3月24日）から転載したものである。